

ソーシャルスキル絵本の作成を通じた学生の学び  
－「保育内容指導法(人間関係・言葉)」の授業実践から－

近藤 万里子・白取 真実  
帝京短期大学

**Student Learning through the Creation of  
a Social Skills Picture Book**

－ From the practice of teaching “Human Relations and Language”  
in a class of childcare content teaching methods

Mariko KONDO, Mami SHIRATORI  
Teikyo Junior College

---

**Abstract**

In recent years, it has been pointed out that children lack basic lifestyle habits and attitudes and have difficulty interacting with others, and that they need to learn social skills in preschools and schools. However, it is difficult for busy childcare providers to learn and practice social skills training (hereinafter referred to as “SST”), so it is desirable to devise ways to conduct SST using picture books that are integrated into the daily childcare program. Against this background, we planned to incorporate the production of a picture book on the subject of SST into the class, so that students can deeply understand the theory and practice of SST. In addition, since picture books are widely used in childcare settings, students can expect to learn more practically by using the picture books they create in the field in the future. Therefore, in this class, we report on a class practice of picture book creation that incorporates the knowledge and skills of SST according to the issues that the students themselves want modern children to acquire.

**Keyword** : Social skills, picture book creation, human relations and language

## 要 旨

近年、基本的な生活習慣や態度が身につけていない、他者との関わりが苦手等の課題が幼児期から指摘されており、園や学校においてソーシャルスキルを学ぶ必要性がある。しかしながら、多忙を極める保育者がソーシャルスキルトレーニング（以下：SST）を学び実践することは難しいため、日々の保育に組み込まれている絵本を用いてSSTを行う等の工夫が望ましい。このような背景から、SSTを題材とした絵本製作を授業に取り入れ、学生がSSTの理論と実践を深く理解できる授業を計画した。また、絵本は保育現場で広く活用される教材であるため、学生が作成した絵本を将来的に現場で使用することで、より実践的な学びが期待できる。そこで本授業では、学生自身が現代の子ども達に身につけて欲しい課題を考え、それに応じたSSTの知識やスキルを取り入れた絵本製作の授業実践を報告する。

**キーワード：**ソーシャルスキル、絵本製作、人間関係・言葉

### I. 問題・目的

近年、幼児の育ちについて『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』（2019年）<sup>1)</sup>において、基本的な生活習慣や態度が身につけていない、他者とのかかわりが苦手、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない等の課題が指摘されている。こうした課題は、これまでは遊びや生活の中で自然と身につけてきていたが、最近では個々に応じた適切な対人面や社会面の支援を必要とされるようになった<sup>2)</sup>。この現象の1つの要因として新型コロナウイルス感染症の影響が考えられる。これまでも核家族化や地域との繋がり希薄化などが挙げられていたが、感染防止のためソーシャルディスタンスを奨励する風潮は子どもの人間関係に距離を生じさせ、延いては対人関係の中で学ぶ相互交

渉の機会を奪ってきたと考える。これから子どもの育ちを担う保育者は一部の子どもだけではなく子ども全体の教育としてこれらの学びに目を向けていかねばならないだろう。

ところで、こうした課題は対人関係を円滑に営むための知識と技術とされるソーシャルスキル<sup>3)</sup>に関わる。ソーシャルスキルを身に付けるためのトレーニングをソーシャルスキルトレーニング（以下：SST）と呼ぶ。上述したように幼稚園や学校において、意図的、計画的に幼児期から子どもの社会性や適切な対人関係能力を育成していく必要性がある<sup>4)</sup>。しかし、多忙を極める保育者がSSTを学び実践することは難しく、簡単に実施できるもの<sup>5)</sup>、かつ日々の保育の中で日常的に取り入れられており実践可能なものが導入し易いと考える。それらの条件を満

たす SST としてソーシャルスキル絵本を提案する。「ガストンのソーシャルスキルえほん」<sup>6)</sup> はユニコーンの子どものガストンがコントロールし難い気持ちに向き合うことで心が育っていくストーリーである。ソーシャルスキル絵本と銘打っている絵本はこのシリーズのみであるが「ソーシャルスキルモンスター」シリーズなど SST を目的としたタイトルの絵本もある。また、「こんなこいるかな」シリーズや「カラーモンスター」シリーズ等、ソーシャルスキルの文言はなくともソーシャルスキルを学べる絵本は数多く出版されている。しかし、絵本の読み聞かせを SST 習得に活用した研究は少なく比較的新しい取り組みである。

SST には、言語的教示、モデリング、リハーサル、フィードバック、般化の 5 つの原理があり、この中でも言語的教示は、言葉でスキルの必要性を説明し SST を学ぶ意欲を高めることである<sup>7)</sup>。山本(2019) は、幼児が身体を通して吸収していくものが生活体験であり、読み手が言葉を通して働きかけてくる体験が絵本の読み聞かせであるとしており、言語的教示は絵本を媒介とすることでより効果を高めると考えられる。さらに、絵本の読み聞かせを通して幼児は、生活世界の意味を言葉で秩序立てて理解し、世界を「物語」という一つのまとまりでつかんでいくとも述べており<sup>8)</sup>、人間関係や基本的な生活習慣などの課題を抱える子ども自身の行動を言葉と絵で整理して提示するこ

とは、自分の行動を自分自身から少し距離を置いたところから物語として顧みることができ理解しやすいと考える。また、向社会的行為を行う人物が登場する絵本の読み聞かせを経験した子どもに向社会的行為の増加が見られた研究<sup>9)</sup> から、絵本はコミュニケーション能力や自己制御能力、向社会的行動等の社会性発達に関係するとされるように<sup>10)</sup>、絵本を用いて SST を実施することは、保育者だけではなく子どもにとっても利点がある。

このような背景から、SST を題材とした絵本製作を授業に取り入れることで、学生が SST の理論と実践を深く理解できると考えた。また、絵本は保育現場で広く活用される教材であるため、学生が作成した絵本を将来的に現場で使用することで、より実践的な学びが期待できる。

そこで本授業では、学生自身が現代の子ども達に身につけて欲しい課題を考え、それに応じた SST の知識やスキルを取り入れた絵本の製作過程を報告する。

## II. 授業の手続きと授業風景

### 1. ミニ絵本の作成

SST 絵本製作前に、黒丸のみで描かれた絵から物語を想像して文章を付けていくお弁当絵本<sup>11)</sup> を作成した。意図を入れずに黒丸を描き、描いた頁を混ぜることで偶発的な構成が出来上がる。その既に出来上がった黒丸のイラストへ文章をつけ、黒丸を何かに見立て想像したものからストーリー展開させていくため、絵本

の作成としては取り掛かりやすく、手の平サイズのため学生は比較的短時間で1冊の絵本を完成することができた（写真1・写真2）。

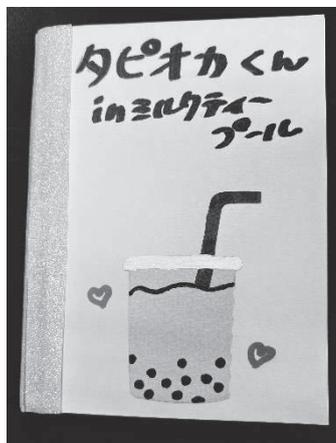


写真1 お弁当絵本表紙（学生作品）

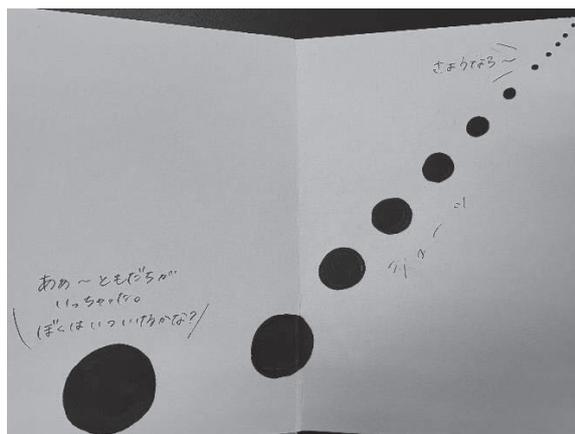


写真2 お弁当絵本内容（学生作品）

## 2. 「こどもと言葉」の振り返り

学生は1年前に受講した5領域の「言葉」に当たる「こどもと言葉」の授業で取り扱った「言葉による問題の外在化」について自作の作品を見ながら振り返りを行った。「言葉による問題の外在化」とは、人が抱える問題へ命名し、問題を自分から切り離すことである<sup>12)</sup>。学生には外在化しやすいように問題をキャラクターにして描き、命名する課題を与えた。

## 3. 「SST」についての学習

ソーシャルスキルと、幼児期の社会性の発達についての復習を行い、社会性が乏しい場合にはどのような課題が起こりやすいかを授業内で取り扱った。その上で、ソーシャルスキルトレーニングと認知行動療法とは何かを講義で伝えた。さらに、認知行動療法の児童書「だいじょうぶ自分でできる後ろ向きな考えの飛びこえ方」<sup>13)</sup>を使用し、学生がソーシャルスキルや認知行動療法を具体的に考える機会を設けた。

## 4. ソーシャルスキル絵本の作成方法について

ソーシャルスキル絵本として問題の外在化とモデル提示の2つの形式を説明した。問題の外在化は「保育内容指導法（こどもと言葉）」で作成したキャラクターと同じで、外在化した問題（キャラクター）に対して対処していく形式であり、モデル提示は、問題をどのように解決すればよいかの良い見本を物語として示す形式である。

また、絵本を冊子にする方法まで具体的な手順についても教示した。作成方法は教示したが、予め用意された画用紙（19cm×26cm）を用い、8ページ以上の規定を設けた以外は学生の自由な裁量に任せた。

## 5. ソーシャルスキル絵本作成と発表

各自1冊のソーシャルスキル絵本を作成し、完成した絵本を用いて読み聞かせの発表を行った。

### Ⅲ. 研究方法

#### 1. 方法

絵本作成後に学生に対し、作成した絵本のテーマ、そのテーマとした理由について記述式のアンケート調査を行った。

#### 2. 分析方法

得られたアンケート結果をそれぞれの項目毎に集計した。

#### 3. 倫理的配慮

絵本作成後に学生全員を対象に本研究への研究参加について、研究目的や意義を口頭で説明し、さらに、個人は特定されず参加者に不利益は生じないことを説明し、同意を得た。

### Ⅳ. 結果

#### 1. 学生のアンケート調査からの結果

アンケート調査結果を表1・2に示す。

表1 絵本の題材

絵本の題材	%
友達との関係	40
偏食	26.6
夜更かし	6.6
笑顔の大切さ	6.6
困難への対応	6.6
物を大切に扱う	6.6
着替え	6.6

表2 絵本の題材の理由

絵本の題材の理由	%
実習で出会った子どもの課題	33.3
自分の幼少期の課題	16.6
子どもへの願い	25
一般的な子どもの課題	8.3
なんとなく思いついた	8.3
自分の課題	8.3

作成された学生の作品を写真3～6に示す。

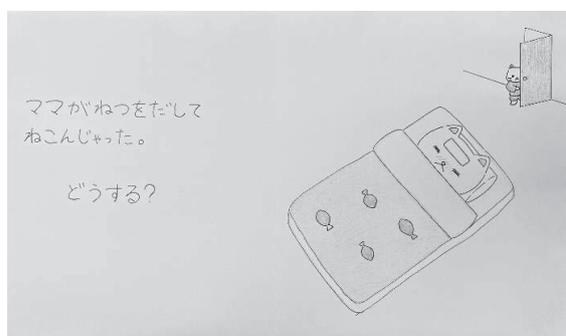


写真3 絵本 (学生作品)

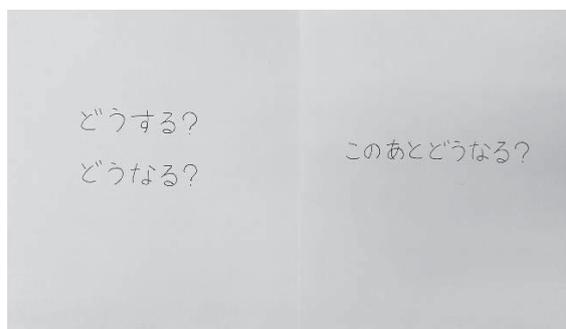


写真4 絵本 (学生作品)

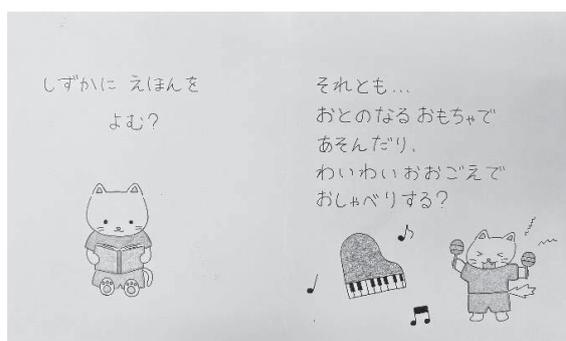


写真5 絵本 (学生作品)

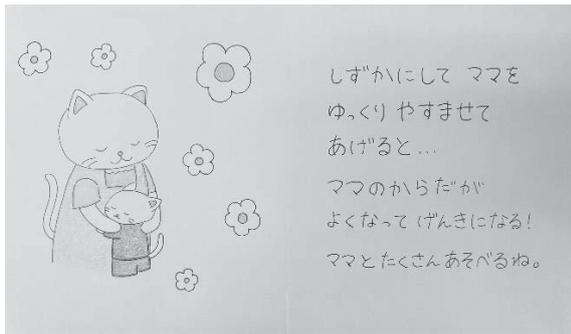


写真6 絵本（学生作品）

この作品（写真3～6）は「どうなる？  
どうなる？」というタイトルがつけられて  
おり、子どもが遭遇する困難な場面を取  
り上げ、その際の適切な対処方法を猫の  
主人公がモデルとして示す内容となっ  
ている。ただ正しい行動を示すだけでな  
く、「どうする？どうなる？このあとどう  
なる？」という文字だけの見開きページが  
あり、子どもに自ら考えることを促して  
いる。これまで経験した授業や実習で子  
どもが自ら考えられるような保育をする  
ということが作者の学生に浸透していっ  
た結果だと考えられる。

次の作品（写真7～8）は、写真7を見  
ると分かるように主人公の吹き出しにセ  
リフがない。写真8には、その作者の意  
図が保護者向けとして綴られている。こ  
のイラストの主人公を見て、読者の子ど  
も達はどう感じ、主人公はどのような気  
持ちを抱いているか、何を言いたいのだ  
ろうか、と、読み手である子どもに対し、  
他者の気持ちを考える機会を作っている。

子ども同士のトラブルは、相手の気持  
ちを読み取れないことから起こることも  
多い。その際に、保育者は互いがどのよ



写真7 絵本（学生作品）

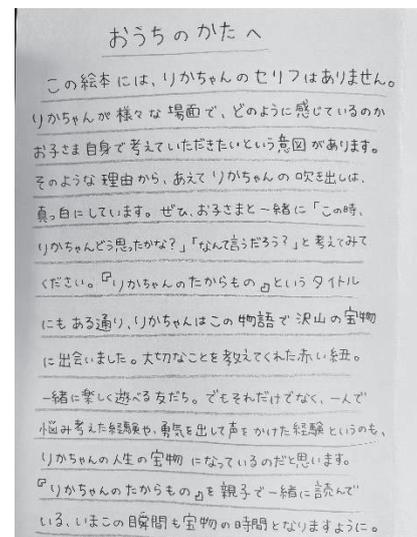


写真8 絵本（学生作品）

うな状況でトラブルになったかを聞き出  
し対処していくことになるが、状況を言  
語化して伝えることは子どもにとっては  
難しく、正しく状況整理ができず保育者  
も対応に困ることも多い。絵本の中で提  
示される友達同士のトラブルを読み手の  
大人と共に見ることができると、大人  
の助言を得て考えることができる。

この作品もこれまでの学びや経験から  
今の子どもの姿を見取る力を学生が确实  
につけてきていることを示していると思  
える。

## 2. 絵本製作の作業過程

絵本製作の過程は、表3に示す通りである。まずは、ストーリーを考えて、具体的なイラストと、セリフづくりの下書きを行った。絵本の基本枚数は16ページとし、大きさは自由とした。画用紙を絵

本の大きさに合わせて切った後、下書き、色塗り、セリフを書き入れる作業を行った。絵とセリフが完成した後は、製本作業を行った。ページとページをのりで張り合わせたものに、厚紙で作った表紙と裏表紙を合わせた後、製本テープを使っ

表3 絵本製作の作業過程

1. ストーリーを考えて、イラストとセリフを考える	
写真9	
2. 画用紙に下書きをしてから、色をつけ、セリフを書く	
写真10	
3. 表紙と裏表紙をつけて製本する。	
写真11	

て背表紙をとめた。最後に、ブックカバーで全体を包んで完成とした。

### 3. 総合考察

ソーシャルスキル絵本の2つの形式を提示したが、多くの学生がモデル提示の形式であった。この理由として問題を外在化すること、外在化した上で解決へ導くストーリーを作成すること、という2つの段階が作成を複雑にしていたと考える。逆にモデル提示では、学生は実習で課題をもった子どもの姿を見る中で具体的にこうして欲しいという願いを持たためイメージがしやすかったと考える。

次にアンケート結果について考察する。題材では「友達との関係」が4割を占めており、学生も対人関係を円滑に導くスキルが今の子ども達に不足していると感じていることが分かる。実習の振り返りにおいても子ども同士のいざこざの対応が難しかったという意見が多かった。保育者に対するアンケート調査(2024年)<sup>14)</sup>では、気になる子どもの行動として「個人行動」「身体特性」「人間関係」「基本的生活」「言葉や会話」の5つのカテゴリーの内、授業等で学んでおいたら良いと感じる内容を保育者に尋ねたところ「人間関係」を最優先する結果となり、学生が捉えた課題と重なる。学生は保育者の対応の様子から子どもへの関わり方を学んでいくため、保育者が気になる子どもの「人間関係」の対応に苦慮している姿をよく見ていた結果の題材であったと考える。

また、学生が選択した題材の理由として「実習で出会った子どもの課題」が最も多く、幼稚園実習を経験する中で子どもの課題に気が付くことができていたことが分かる。次に「子どもへの願い」の題材理由が多かった。実習の経験を述べてはいないが、同様にこれまで出会ってきた子どもを想像しての題材であろう。「自分の幼少期の課題」や「自分の課題」と学生自身に重ねた題材も見られた。子ども観や保育観は実習やボランティア等の子どもと触れ合う体験だけではなく、幼少期の自己を土台としても形成される。子どもとの関わりが少ない学生にとっては幼少期の自分は数少ない経験値に含まれると考える。また「一般的な子どもの課題」と回答した学生が1名いた。授業や書籍、メディア情報の参照から得たテーマだったと想像する。実践の中で抱くズレの原因として「思い込み・決めつけ」が挙げられている<sup>15)</sup>。現代社会における一般的な子どもの課題を知識として知った上で、実際に向き合った子どもの課題を捉える力が必要であろう。

絵本製作を通じて、予想以上に多くの作業工程が必要であることを学生自身が実感し、その過程で学生同士が意見を出し合いながら協力し、互いに教え合う姿が見られた。また、時間をかけて製作に取り組んだ結果、完成時には達成感を口にする学生も多かった。この経験は、将来の保育実践にもつながる財産となると考えられる。完成した絵本は、保育者と

して子どもに読み聞かせる際、子どもの反応を観察し、保育の現場での教材活用の可能性を広げる契機となることが期待される。この経験を基に、より良い教材作りや保育実践の発展に向けた一歩を踏み出してほしい。

## 参考文献

- 1) 文部科学省『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』, 2019  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1395404.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1395404.htm)  
(2024年11月21日閲覧)
- 2) 田中裕子「日常保育における人間関係を育む事例の検討 - ソーシャルスキルトレーニング (SST) の技法を用いて -」愛知教育大学幼児教育研究 18. 71-78, 2015
- 3) 岡田侑樹「児童のニーズからつくるソーシャルスキルトレーニングの開発」大分大学教職大学院研究報告 7. 18-32, 2024
- 4) 高橋京子、境泉洋、松原耕平「幼児期の集団社会的スキルトレーニングが学齢期の社会的適応に与える影響」宮崎大学教育学部紀要 102 127-139, 2024
- 5) 白石京子「友だちと上手く関われない『気になる子』の心理教育的援助：『個別支援』と『援助資源としてのクラス支援』による教育的効果 (1)」生活科学研究 35 111-122, 2013
- 6) オーレリー・シアン・ショウ・シーヌ、(翻訳) 垣内磯子「おこりなくなったら やってみて! (ガストンのきぶんをととのえるえほん)」主婦の友社. 1-32, 2019
- 7) 相川充、猪狩恵美子「子どものソーシャルスキル イラスト版：友だち関係に勇気と自信がつく 42 のメソッド」合同出版. 106-109, 2010
- 8) 山本悦子「読書教育の未来」日本読書学会. 178-187, 2019
- 9) Larsen,N.E., Lee,K., Ganea,P.A.. Do storybooks with anthropomorphized animal characters promote prosocial behaviors in young children? *Developmental Science*, 21(3)doi: 10.1111/desc.12590. Epub 2017 Aug 2. PMID: 28766863. 2018
- 10) 今福理博、五藤沙耶「幼児における紙絵本・デジタル絵本経験と言語・社会性発達」人間学研究論集 (11) 23-32
- 11) 長谷川集平「絵本づくりトレーニング」筑摩書房, 1988
- 12) 木下梓、中津達雄、貴志知恵子「外在化療法を基礎とした絵本の作成とその活用について」徳島文理大学研究紀要 104 (0), 31-42, 2022
- 13) ドーン・ヒューブナー、(翻訳) 上田勢子「だいじょうぶ自分でできる後ろ向きな考えの飛びこえ方ワークブック」明石書店. 14-21, 2009
- 14) 渡辺聡「保育者が気になる子どもの行動についての考察 - 特別支援授業改善をめざすためのアンケート結果か

らー」羽陽学園短期大学紀要 12 (2),  
21-34, 2024

- 15) 田中修敬、西山修「保育者が実践の中で抱くズレの認知の特徴」応用教育心理学研究 40 (1), 3-17, 2023

## 謝 辞

研究にご協力下さいました学生の皆さんに心よりの感謝致します。